

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：低木を利用した防護柵の代替えの取り組みについて		
水系／河川名：石狩川水系／幾春別川	河川分類：中小河川	
河川の流域面積：343km ²	整備計画流量：700m ³ /s(W=1/40)	セグメント：2-1
事業：維持管理	事業開始年度	平成27年度
目標設定：なし	段階	D(実施・施工時)
課題・目的(主な)：水辺へのアクセス改善、その他		
工法(主な)：移植、植樹、管理用道路の整備		
配慮事項(主な)：河川景観への配慮、施工管理、その他		

背景・課題、目標設定

＜背景・課題＞

幾春別川の岩見沢市街地区間(KP6.6～17.10)は掘込河道となっており、ショートカット等による河道改修直後の状況は河畔林も少なく単調な景観であった。幾春別川沿いに緑豊かな水辺空間を創出するため、平成6年から17年にかけて、市や「幾春別川をよくする市民の会」(H26に河川協力団体に指定)と協力し「緑の回廊事業」として市民参加のもと植樹を行った。また、植樹後は市民の会が中心となって、住民参加による樹木のメンテナンスも行っており、現在は樹木も生長し、地域住民の散策路として利用されるなど、多くの市民に親しまれている。

同地区では掘込河道に沿って転落防止用の防護柵を設置したが、豪雪地帯ということもあり時間の経過と共に破損が目立つようになった。しかし河川管理施設が多く維持費がかさむ中、防護柵の補修は大きな負担となり修繕に至っていない。

＜目標設定＞

地域に防護柵の代替えとして「ハマナス」などの低木の植樹の取り組みを理解してもらう。その上で住民参加の植樹や維持管理が行われている地域特性を活かし、代替えとなる低木の植樹から維持管理を地域住民と共同で行うことで、河川の安全と良好な景観の両立した住民参加型の施設管理を目指すものです。

取り組み内容・対策例

将来の柵のイメージ

【植樹会の実施】

平成28年11月に河川協力団体と地域住民、河川管理者が共同で植樹会を実施

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

＜実施に向けての取り組み＞

- ・植樹から維持までの実績のある河川協力団体の協力を得ながら住民参加型の河川管理を目指す。
- ・以下の4点を目標に住民参加型の仕組み作りに取り組む。

- ①安全な施設
- ②良好な景観
- ③低コスト(維持管理含む)
- ④継続した維持管理

住民、河川協力団体、河川管理者が共同で植樹から維持管理までを行う

植 樹



維持管理



備考

平成28年から河川協力団体(幾春別川をよくする市民の会)と地元町内会、河川事務所が共同で植樹会を開催しています。

平成30年以降は維持管理の作業(ふれあいメンテナンス)にも今回植樹した箇所を加える予定です。

問い合わせ先 北海道開発局 札幌開発建設部 岩見沢河川事務所

電話番号 0126-23-9555

低木を利用した防護柵の代替えの取り組み

Keywords : 良好な景観, 地域連携, 継続した維持管理



岩見沢市街地を流れる幾春別川では、掘込河道箇所に転落防止用の防護柵を設置しましたが、豪雪地帯ということもあり時間の経過と共に破損が目立つようになりました。しかし防護柵の補修にはコスト面で負担となり修繕に至っていませんでした。そこで**地域住民との連携**を図ることでコストを抑え、**良好な河川景観**と調和することを目指した“低木を利用した防護柵の代替えの取り組み”を行いました。